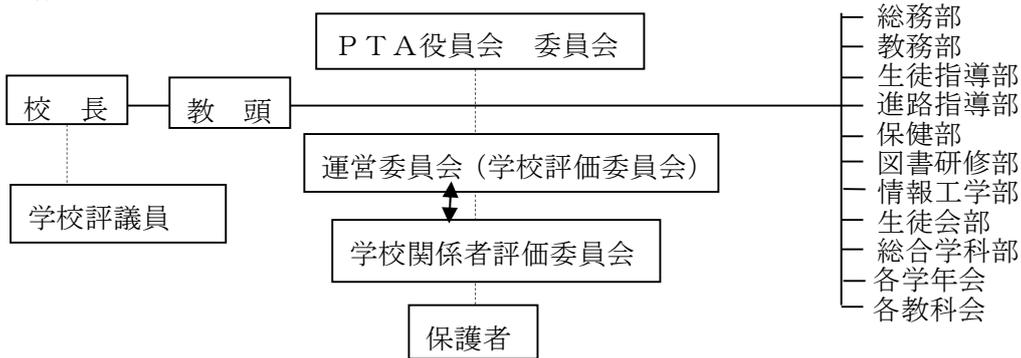


学校評価

(1) 学校評価のための組織

ア 組織図



(2) 令和5年度の学校評価

本年度の重点目標	<p>家庭、地域、中学校から信頼され、愛され、地域になくなくてはならない学校の樹立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大いに学び、大いに鍛え、自らの道を切り拓く、心豊かな活力みなぎる生徒の育成 ○一人一人の生徒と向き合い、きめ細かな指導・手厚い指導をし、キャリア形成を支援 ○活力ある教育活動の推進に向けた教職員の健康安全の保持・増進 ○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進 ○ICTの活用方法の研究 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の涵養と避難の実践 ・コロナ後の学校儀式のあり方の検討と改善 ・創立50周年記念事業に向けて、実行委員会の活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・激甚災害等に対する防災意識と身を守る力を高める。 ・新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた。学校儀式のあり方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識については、春に避難訓練を実施し、秋には「防災LT」と「防災講話」を実施して、生徒・職員の意識の高揚を図った。とくに「防災講話」では、岡崎市の防災課の方で、レッドサラマンダーでの緊急出動の経験がある方を講師として招聘し、実際の救助の現場の動画を見たことで、防災・減災への意識を新たにすることができた。 ・コロナ後の学校儀式のあり方については、人が一堂に会することの教育的効果を鑑み、できる限りコロナ禍前の形に戻していくよう、検討と準備を重ねた。 ・学校創立記念事業については、令和5年内に3回、翌1月～3月に2回の実行委員会を開催し、より具体的な事業の形が見え始めてきた。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程に基づいた教育活動の充実と次年度の準備 ・校務支援システムの円滑な運用 ・新たな高校入試への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導マネジメントシートに基づいて教育活動を実践するとともに、次年度の授業実施に向けた準備を進める。 ・各種マニュアルを作成し、職員が円滑にシステムを運用できるよう努める。 ・校内のさまざまなマニュアルを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちラーニング推進事業に関連して、1・2学期にICT活用状況を調査した。使用頻度の高まりは見られたものの、事業の本来の趣旨である「主体的・対話的で深い学び」につながる使用例はまだ少ない。事業の指定は次年度も続くので、さらに取り組みを深める必要がある。 ・各学期の観点別評価の実施状況を集約し、閲覧可能とした。次年度は全学年で観点別評価を実施するため、全教員が対象となる。情報共有にさらに努めていきたい。 ・次年度の学習指導マネジメントシートの作成は、各教科で進めてもらうことができた。 ・校務支援システムの運用には大きな変更点はなかったが、軽微な修正を必要に応じて行った。 ・必要な資料をその都度作成し、選抜委員及び全職員に周知し、入試業務を円滑に進めることができた。Web出願に関する業務を教務主任がほぼ行ってしまったため、業務の引き継ぎの観点から実施方法を見直す必要を感じた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立 ・ あいさつの励行 ・ 交通安全意識の向上 ・ 情報モラル教育の推進 ・ いじめの早期発見と解決 ・ 整理した校則の運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻の減少のため生活習慣の見直しと時間を守る意識の向上を図る。 ・ あいさつは「いつでも、どこでも、何度でも」する。 ・ 講話や研修を行い生徒の交通安全意識の向上を図る。 ・ 講話や研修を通して情報モラル教育を行う。 ・ 面談やアンケートを定期的かつ必要に応じて行い、早期発見に努める。 ・ 校則を守るだけでなく、TPOをわきまえるなど判断力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻者数が大幅に増加した。段階的指導の回数としてカウントしない体調不良への配慮が甘かったこともあるので、カウントの仕方を定め、時間を守ることを徹底させていく。 ・ 交通安全意識の向上からか、交通事故者数が前年度より4件減少した。また、その内訳として本校生徒の交通ルール違反でない交通事故がほとんどであった。 ・ 情報モラル教育の推進を行ったこともあり、今年度は後半になるにつれて SNS トラブルが減ったように感じる。次年度は年度初めから SNS トラブルが起きないように早い防止をしていきたい。 ・ いじめの早期発見は継続して行っていく。それに加え、生徒同士のいじり合いなどが過度になっていく傾向も感じるため、予防の声掛けを行っていく。 ・ TPO をわきまえた行動を指導していくことは、今後に必要なことであるとを感じる。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合学科としての特色を生かした進路指導の充実 ・ 進路指導を通して、生徒の可能性を引き出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路情報の積極的な発信をするとともに、これまでに確立してきた校内の進路指導体制をよりよいものにさせる。 ・ キャリア教育事業やインターンシップへの積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップや高大連携事業への参加は通常実施に戻ったこともあり、参加者数は前年度よりも多くなった。また、地元企業からも高校生と関わる機会の設定を求められている。事前指導や事後指導でキャリア教育ノートを活用しながら職業観を深める指導をより一層積極的に行っていく。 ・ 面接指導や小論文指導を職員全体で行っている。ある程度形式化されてきているので、継続していきたい。 ・ 進路検討会で大学や専門学校の情報発信を積極的に行った。参加する当該学年以外の先生方への発信も積極的に行っていく。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の充実 ・ 安全教育の実施 ・ 校内美化、校内の安全確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他校と情報交換をし、教育相談機会を充実させる。 ・ AED 講習会の実施等を通して、安全教育の充実を図る。 ・ 清掃活動の充実を図り、校内美化と安全衛生委員会を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西三東地区教育相談部会の幹事校として、各校との情報交換を積極的に行うとともに、相談活動の充実を努めた。 ・ 日赤から講師を派遣していただき救急法講習会を行った。分かりやすく実践していただくことができた。 ・ 昨年度に引き続き安全衛生委員会が中心となって、年度末に職員室の大掃除を行うなど、さらなる清掃活動の充実を図った。校内美化に関しては、監督教員の不足などから、通常清掃の担当が足りず、清掃しづらい場所もあるため、校内美化をさらに充実させるためにはどうすべきかを考えていきたい。
研修部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館活性化のための方策の検討 ・ 言語活動、探究学習を意識した授業の研究 ・ 教員の情報セキュリティ意識と技能のさらなる向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良書の選定を適切に行い、教育活動に有用な書籍が使いやすい配架された図書館を目指す。展示物や図書館だより、図書館行事等を充実させ、魅力的な図書館作りを図る。 ・ 新学習指導要領の施行に伴い、深い学びにつながる言語活動や探究型の学習について、教科を超えた情報の交換を行い、教員としての力量を高め合っていく。 ・ 生徒の一人一台タブレットの配布に伴い、情報化推進委員会を中心に、安全かつ効果的な運用につながるよう検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館行事として、1～3学期の終わりにビブリオバトル、ブックトーク、読書会を開催し、図書委員が中心となって行事を盛り上げた。読書好きな生徒にも参加を促し図書館の行事として定着しつつある。 ・ 「主体的・対話的で深い学び」につながる言語活動や探究型の学習について、必要な本を各教科の要望に応え購入を進めることができた。今後も教科を超えた情報の交換を行い、教員としての力量を高め合えるよう、学校図書館の機能を充実させていきたい。 ・ 今年度の途中から、研修部の中で、研修・図書部門と、ICT 関連の情報推進の部門を分けてそれぞれの活動に集中して取り組めるようにした。これにより、仕事が区別され、それぞれの業務に、より集中して携わることができた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事や部活動による学校全体の活性化 ・ボランティア活動の一層の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡東祭の企画を安全面の配慮をしながら、活発に行えるよう計画を立て運営する。 ・生徒会活動や部活動への積極的な参加を促す。 ・ボランティア活動の全体への参加を継続して促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症対策のため競技の精選や休憩時間の見直しなどを行ったことで、熱中症になる生徒を出すことなく無事に行事を終えることができた。 ・令和4年度から交流会を岡崎特別支援学校とみあい特別支援学校の2校を増やし行っているが、直接交流する機会を増やしたことで、昨年度よりも活発な交流ができた。
総合学科部	<ul style="list-style-type: none"> ・東海地区総合学科高等学校長会協議会及び愛知県総合学科研究協議会の適切な運営 ・効果的な探究活動への取組促進 ・広報に関する全体像を、職員全体が共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省を活かしながら、準備日程、役割分担を行い、計画的に準備を進める。 ・効果的な探究活動に取り組めるように年間計画を作成する。 ・生徒が主体的に探究活動に取り組める指導案及びワークシートを作成する。 ・年間の広報計画を作成する。 ・広報計画を職員全体で共有することにより、効果的な広報活動の展開を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月23日、11月30日に東海地区総合学科高等学校長会協議会、8月9日に愛知県高等学校総合学科教育研究協議会を開催した。大会後の参加者アンケート結果からも、参加者の満足度は高く、効果的な協議会を運営することができた。 ・「職業探究」「言語探究」「進路探究」の3本柱とした年間計画をもとに授業展開をしている。探究活動の時間がやや不足しており、適切な探究活動に取り組めるように年間計画を調整しながら取り組むことができた。 ・広報委員会(仮)を開催し、広報委員会資料を作成し、教員間の意思統一を図るとともに、重点目標を設定し、目標達成に向け取り組むことができた。
1年学年	<ul style="list-style-type: none"> ・何事も最後まであきらめずに「やりきる」気持ちをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは毎日の授業、部活動、課題学習に対して精一杯取り組ませる。 ・小さな目標達成に対しても評価し、次行動へとつながる助言を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の確立によってできるようになったことは増えた。 ・すぐに成果が出ないことに対してあきらめたり、進路選択に対して後ろ向きになることがあった。継続することで少しずつ成果が出ることを指導した。
2年学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験や感情を、自分の言葉で語ることができる生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに興味がわいたことに挑戦し、何故興味がわいたのかを語るよう生徒に促す。 ・人の話を数多く聞く中で「なるほど」と思ったことを語るよう生徒に促す。 ・おぼろげながらも将来の自分について語るよう生徒に促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級担任が生徒との面談で、現在及び将来について、生徒が自身の描像を描くことができるように傾聴し、必要に応じて助言をした。 ・総合的な学習の時間の活動を通して、生徒自身の興味を深めていくことができるよう、学級の正副担任で生徒の活動を支援した。
3年学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の良さを生かし、自己実現のために挑戦する意志と力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立(挨拶、身だしなみ、授業態度、遅刻・早退への対応) ・学習習慣の確立 ・部活動、学校行事に積極的に参加させ、リーダーとしての自覚を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身だしなみ等は崩れずに継続することができた。ただ、受験期にメンタル不調や疲れのため欠席する生徒が多く出てしまい、最後まで学校生活を大切にすることができなかった。 ・部活動や学校行事において、リーダーとして中心的に活躍し貢献することができた。
多忙化解消に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・校務の点検、精選による多忙化の改善 ・多忙感、負担感を解消するための業務改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援ソフト(スクールエンジン等)の活用による教育活動の見直し。 ・在校時間の状況記録を確認する等、勤務時間の適正な管理を行い、教職員の健康障害防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理では、スクールエンジンに移行して2年目となり、成績処理で不都合を感じることなく進めることができた。 ・1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行う。必要な場合、学校カウンセラーや、衛生管理医などにつなげメンタルヘルスを充実させる。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学校いじめ防止に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会の充実 ・いじめの早期発見と解決 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援リストを作成し、学校全体で支援する体制をつくる。 ・L Tや全校集会での講話を利用していじめ防止に対する生徒の意識を高める。 ・面談やアンケートを定期的かつ必要に応じて行い、早期発見に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止に向けた取組では、学級担任と生徒との面談時間の確保とともにきめ細やかな対応ができています。 ・教育相談委員会を定期的に開催し、生徒把握に努め、より良い支援ができるように意見を出し合い学校全体で共通認識をもつことができた。 ・教育委員会から配付されるリーフレットなどを有効に活用することができた。

総合評価	<p>各分掌がそれぞれの役割に対し主体的に取り組み、令和5年度を無事に終えることができた。</p> <p>教務領域である成績処理では、スクールエンジンに移行し、成績処理や担任の業務の負担軽減につながっている。</p> <p>いじめ防止に向けた取組では、学級担任と生徒との面談時間の確保とともに、問題を抱えた場合、速やかに「いじめ対策委員会」を開き関係職員と情報共有し、対策を講じることができた。</p> <p>引き続き教職員の働き方を見直し、よりよい職場環境を整えていきたいと考える。</p> <p>以上のことにより、今年度の総合評価はBとする。</p>
------	---